

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171400197		
法人名	株式会社 三栄		
事業所名	株式会社三栄グループホーム すぎの子		
所在地	唐津市巖木岩屋1373番地1 (電 話) 0955-63-4021		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年4月14日	評価確定日	平成 21年5月15日

## 【情報提供票より】(平成21年3月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19人	常勤	9 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 14.4 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(平成21年4月14日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 87.4 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平川病院 宇都宮病院 井本歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

あたたかな地域の方たちに囲まれ、交流も豊富で、環境と地域に溶け込んだホームである。運営理念として「その人らしく笑顔ある生活作り」を掲げ、画一的なケアではなく、一人ひとりの特性を見極め柔軟に対応されている。アコーディオンの音楽に合わせ歌声や笑い声がホームを包み「のんびり・ゆっくり・自分らしい生活」が過せるように努められている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の問題点「終末期の指針」等は、ミーティング等で話し合い、改善への取り組みがなされている。日々改善へ向けての体制づくりができており、サービス向上へつなげるように努められている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、方向性を一人ひとりが再確認するように取れ組まれている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度開催し、区長、民生委員、老人会会長、介護保険課からの参加があり、様々な立場で意見交換ができ、サービス向上に活かす取り組みがされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りだけでなく、一人ひとりの生活状況、金銭出納簿等の報告をし、意見や要望の呼びかけを行っている。玄関には苦情受付箱を設け、面会時に意見、要望を聞く等、意見が言いやすい環境作りが努められている。また、寄せられた苦情に対しては、すぐに対応されている。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	回覧板や市報配布当番等、地域の住民として役割を持ち、地域の清掃活動、老人会、サロンにも参加され、良い関係が築かれている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として、「その人らしく、笑顔ある生活づくり」を掲げ、ホーム内に掲示し、さらに具体的な指針がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と具体的な指針をデイルームに掲示して、毎朝唱和し、意識を高めるよう努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「高齢者いきいきサロン」、老人会活動へ積極的に参加されている。回覧版を情報源とし、清掃活動や市報配布当番等、地域の一員として役割を担っている。ホームでも、年4回の交流会を開催し、交流を深めるよう努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、方向性を一人ひとりが再確認し、問題点は前向きにミーティング等で話し合い、改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、区長、民生委員、老人会会長、介護保険課等様々な立場の方の参加があり、制度改正の説明や相談、報告等幅広い意見をサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険課、福祉課を月1回訪問し、ホーム便りを配布し、情報交換を行ったり、民生委員会に参加し、状況報告する機会をつくり、サービスの質の向上に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のホーム便りと一緒に、状況報告、金銭出納帳を送付し、個々の生活面の報告をされている。職員の紹介はホーム便りで連絡されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を備え、ホーム便りでも苦情相談の呼びかけがされている。面会時に意見交換、相談する機会をつくれるように配慮されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が少なく、3年以上の勤務者が半数以上である。離職者が生じた場合は、問い合わせがあった時に説明を行い、入居者は、個々に応じて対応するよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、希望を募り、参加できるよう勤務の調整や費用の補助が行われている。職員の向上心を大切にし、必要な研修を受けやすい環境がつけられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの運営者との交流は行われているが、職員間の交流する場としては、現在計画で行われていない。	○	ホームの運営者だけでなく、職員間での意見交換ができるように同業者との交流を図り、サービスの質の向上への取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	昼間にホームに来て食事をしたり、数時間過していたき、入居前に十分時間をとるように努めている。緊急時の受け入れの場合は、家族と相談しながら、一人ひとりに合った対応が行えるよう努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に過しながら、得意とすることを見極め、日常生活に取り入れれたり、楽しみや役割をもち、入居者から教えてもらえる関係を築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに問いかけたり、話しやすい環境作りを心がけ、希望、意向の把握に努められている。表現できない方へは、行動等で察知し、思いを汲み取るように支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向を面会時や電話等で把握し、「できること」を大切にして介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	週1回カンファレンスを開催し、必要に応じて見直しが行われている。変化が生じた場合は、随時カンファレンスを開催し、現状に即した介護計画を作成するように努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型認知症対応型通所介護の受け入れが行われている。又、日常生活の買い物や散歩は、その日の希望や身体状況に応じて柔軟な対応をされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、希望に応じて継続受診が出来るように支援されている。受診時は付き添いを行い、かかりつけ医との関係づくりに努められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における指針」、「ターミナルの指針」を作成し、入居時に説明し、同意を得られている。重度化した場合は、主治医、家族、ホーム等で話し合い、その都度方針を決定するよう取り組まれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、丁寧な言葉かけがなされている。個人情報、「個人情報取り扱い同意書」を得て、内容以外の取り扱いはされていない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重しながらも、メリハリのある時間をもうけ、生活リズムを整えていけるように支援されている。音楽、体操等、暮らしの中で楽しめる環境づくりや、拒否される方への声かけ等、日々工夫されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立や、食事を楽しめるよう工夫されている。食事の準備や片付けは職員と一緒にされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、曜日、時間帯は決められているが、両ユニットの浴室を活用しながら、希望に応じて毎日入浴されたい方にも対応でき、ゆっくり入浴できるように支援されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や日常生活の中で、食事の片付け等役割を持ち、趣味やレクリエーション活動を通して楽しみをもてるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、希望に応じて車椅子の方も買い物へ散歩しながら行く等、外出への支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がなく、危険防止として、センサーチャイムを設置し、日中は正面玄関も開放され、鍵をかけない取り組みがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもと、年に3回避難訓練を行っている。また、緊急時の連絡簿を作成し、日ごろより地域の方の協力が得られる体制づくりがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、疾患別の食事の対応や、必要に応じて量、食事形態を加減したり、捕食を取り入れている。また、確実に水分が取れるよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる草花や、BGMで心地よく過せるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇、冷蔵庫、テレビ等、使い慣れた好みの物を自由に持ち込むことができ、その人らしく、心地よく過せるように工夫されている。		